



増戸小だより

Tel 042-596-0240

Fax 042-595-1022

あきる野市立
増戸小学校
No. 9
令和8年 1月8日

令和8年度に向けて、受け継がれた樺をつなぐ

～新学年への樺を上級生から受け取る充実した3学期に～

校長 時計 祐司

あけましておめでとうございます。皆様は穏やかな年末年始を過ごされたでしょうか。私は、毎年の楽しみとして、箱根駅伝をテレビで観戦しました。見所は、難所と呼ばれる山登りの5区。記録が更新される度に、新たな「山の神」と呼ばれるランナーが誕生します。今年度は、早稲田大学の「山の名探偵」と呼ばれる工藤慎作選手に注目していましたが、漆黒の追跡者こと青山学院大学の黒田朝日選手の驚異的な走りにより、逆転されてしまいました。「俺が、シン山の神だ。」と叫ぶ黒田選手の活躍が強く心に残ったレースでした。

そんな華やかな箱根駅伝の中で、毎年涙ぐんでしまう場面があります。それは、樺がつながらなかつた中継所の場面です。わずか十数秒足りずに、次走者は繰り上げスタートのために仲間を待たずに出走します。20km以上の距離を走り、ラストのカーブを曲がると見えるはずの樺を渡す仲間を見当たらない。誰もいないゴールにたどり着いた走者の顔は、走りきった満足感より、樺をつなげられなかつた無念さで滲んでいます。勝者がいれば敗者がいる、努力した者が全員報われるわけでは無いその残酷さは、スポーツというもの忘れてはならない側面だと感じさせられます。

さて、昨年度末に開催された「第15回 秋川流域子ども体験塾 小中学生駅伝大会」では、増戸小の男子チーム「かたつむり」が優勝、女子チーム「カメ」が6位入賞と大健闘しました。優勝した男子チームは、校内での駅伝練習の時点で「区間賞を取るためにには、一人一人が本番で40秒近くタイムを縮めなければならない」という走力でした。駅伝本番で、練習以上の力を発揮した男子チームは、大幅にタイムを更新する立派な姿を見せてくれました。他の子供たちも全員が完走、そして樺をつなぐことができたことが素晴らしいです。

令和7年度、残る3学期では、1年生は新2年生となって、新たな1年生を迎える準備をします。5年生は、新たな最高学年としてその樺を6年生より受け取ります。毎年、受け継がれていく増戸小学校の樺です。今年の干支は午。
ひのえうま丙午は、情熱や強さの象徴と言われています。3学期も、増戸小学校の教職員一同、丙午のごとく教育への情熱をもって令和8年度への樺を途絶えさせずに走っていきます。今年も変わらぬ御支援のほど、よろしくお願いします。



▲勝利のポーズ 最速の蜗牛
スネイル
令和7年12月13日 撮影